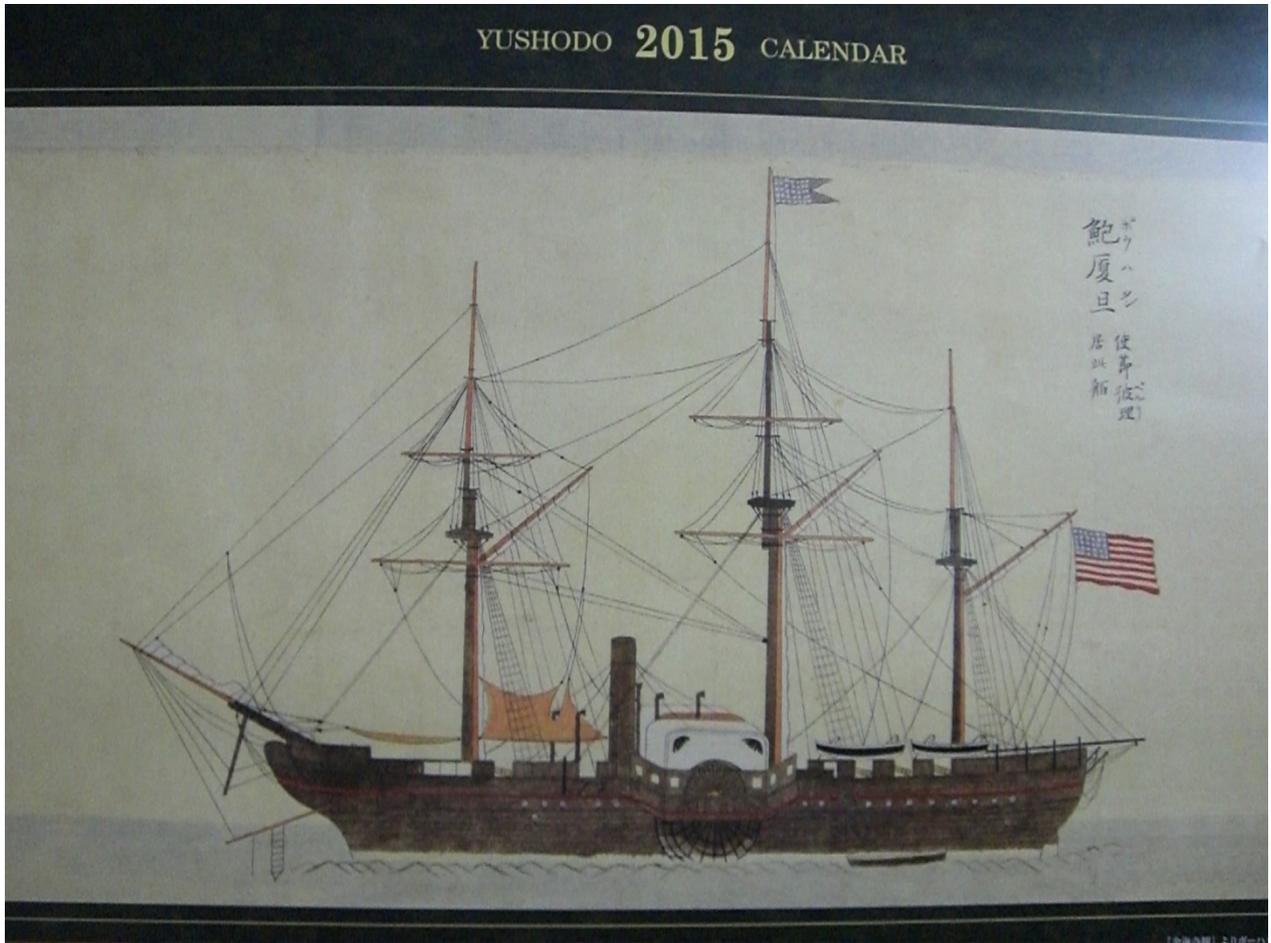


19世紀の蒸気船（外輪船）

ペリー艦隊旗艦「ポウハタン号」（ペリー再来航時、1854年）

仙台藩絵巻物『金海奇観』より



『金海奇観』よりポウハタン号（ペリー艦隊の旗艦）
早稲田大学図書館所蔵（大槻家旧蔵）



『金海奇観』

嘉永7年（1854）に再び来航したペリー艦隊を描いた絵巻。仙台藩の儒者大槻磐溪が日米交渉の現場に立ち会った儒者や絵師らの協力を得て編集。ペリーらの肖像はもちろん、艦隊が碇泊している本牧沖の景観、蒸気船と帆船の図、榴弾砲、乗組員の服装、蒸気機関車と客車、線路、コルト拳銃、鉛弾の鋳型、電信機などが水彩で精密に描かれている。このうち電信機は平成9年（1997）に国の重要文化財に指定され、現在郵政博物館に収蔵されている。2014年、本絵巻の原裝影印版を雄松堂書店が復刻（左図）。

出所：YUSHODO 2015 CALENDAR